



*Breakthroughs for the future*

# 第95期中間 株主通信

平成29年4月1日から平成29年9月30日まで



**バンダー化学株式会社**



## 企業の持続的な成長に向けて

代表取締役社長 **吉井満隆**

### ご挨拶

株主の皆様には、日頃は格別のご高配に預かり、心からお礼申しあげます。第95期中間株主通信をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申しあげます。

当第2四半期連結累計期間の世界経済は、米国は自律的な景気回復局面にあり、欧州も引き続き緩やかな景気回復が持続いたしました。アジア地域の景気は総じて堅調に推移いたしました。中国は高めの水準ながら横ばいで推移し、日本は緩やかな持ち直しが持続いたしました。

当社グループの主要な市場である自動車分野におきましては、米国では、消費者の買い替え需要が一巡したことなどもあり、自動車生産台数が減少し、欧州では前年並みで推移いたしました。中国では、自動車生産台数が前年度を上回る状況で推移いたしました。韓国車の販売不振が依然として続いております。また、日本では、新型車の投入などにより生産台数が前年度を上回る状況で推移いたしました。そのほか、農業分野におきましては機械化による生産性向上の動きが進んでおります。

このような状況のなか、当社グループは、中長期経営計画“Breakthroughs for the future”（未来への躍進）の第1ステージの最終年度として、自動車用、二輪車用、農業機械用および一般産業用の伝動ベルト、軽搬送用ベルトなどを主軸として販売体制を強化し、日本や中国、アセアンを中心に拡販活動を活発に展開いたしました。また、収益力向上のため原価低減活動を徹底し、世界最適調達・生産・供給体制の構築によるグローバル競争力の強化などにも取り組んでまいりました。これらの結果、当第2四半期連結累計期間は、売上高は457億9千2百万円（前年同期比4.5%増）、営業利益は30億8千5百万円（前年同期比8.1%増）、経常利益は33億8千7百万円（前年同期比22.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は25億9千7百万円（前年同期比24.0%増）となりました。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### トップインタビュー

**Q** 自動車の電動化の加速に向けた取り組みをお聞かせください。

**A** 世界的にハイブリッド車(HV)や電気自動車(EV)の普及が進むと補機駆動用伝動ベルトを使用しない車が増え、主力の自動車用ベルト製品の需要が減少する可能性があります。具体的には、中長期経営計画“Breakthroughs for the future”（未来への躍進）の第2ステージ(2018年度から2022年度)において、この影響が出てくると考えています。主力の自動車用ベルト製品の需要減少に対して、従来は油圧や機械式のギアで駆動している電動パワーステアリングや電動ブレーキ、パワースライドドアなどがベルト駆動に代わることで生まれると期待できる新たな需要で補っていきたいと考えています。さらに長期的な視点で見ますと、自動車の塗装代替として需要拡大が期待できるフィルム製品や、自動車の電子化に伴って重要となる熱マネジメントに貢献できる「放熱シート(高熱伝導シート)」など、当社グループの強みであるゴム・エラストマー関連の技術を活用できるオプトエレクトロニクス分野やパワーデバイス分野、医療・福祉分野などで新製品を開発し、新事業の創出に向けた取り組みを着実に進めてまいり所存であります。

**Q** 「バンドーグループ健康宣言」を制定した意図を教えてください。

**A** 当社は、「一人ひとりが健康管理に取り組み、いきいきと働く職場をつくる」を行動指針とし、メンタルヘルス対策(セルフケア、ラインケアの強化)や生活習慣病の改善・予防のための健康増進行動の促進、職場目線での環境改善などに取り組んでまいりました。今後、働き方改革と連動させながら、これらの取り組みを強力に推し進めるため、従業員の健康の位置付けやグループとしての取り組みを明確にすべく「バンドーグループ健康宣言」を制定いたしました。

#### バンドーグループ健康宣言

バンドーグループは、グループ発展のために、一人ひとりの心身の健康が基盤であると考え、従業員の健康増進を強化します。

1. 経営トップのリーダーシップのもと、バンドーグループが“がっちり”一体となって健康経営を推進します。
2. 従業員自ら“わくわく”と健康づくりに取り組むことを支援します。
3. 働き方改革と連動しながら“いきいき”働ける職場づくりを目指します。

#### 重点方策

1. “がっちり”一体  
「健康いきいき職場づくりチーム」を事業所単位で設け、事業所ごとの個性を生かしながら会社と従業員と健康保険組合が一体となって健康づくりに取り組みます。
2. “わくわく”健康づくり  
一人ひとりが健康ビジョンを策定し、健康づくりの効果を自ら実感できる取り組みを行います。
3. “いきいき”働ける職場環境  
仕事と余暇が充実した従業員があふれる職場を目指します。



## 事業別の概況

### 自動車部品事業

売上高 20,338百万円 前年同期比 2.7%増

セグメント利益 1,458百万円 前年同期比 15.3%増

#### 概況のポイント

- 国内では、生産台数は前年を上回ったものの、顧客の海外現地調達化の影響などもあり、補機駆動用伝動ベルト(リブエース®)および補機駆動用伝動システム製品(オートテンション、バンドースムースカップラー®など)の販売が減少。
- 海外では、中国において主要顧客の生産台数の減少により販売が減少したものの、アジア地域において積極的な顧客開拓に注力したことにより、補機駆動用伝動ベルト、補機駆動用伝動システム製品およびスクーター用変速ベルトなどの販売が増加し、海外全体では増収。

### 高機能エラストマー製品事業

売上高 7,963百万円 前年同期比 8.9%増

セグメント利益 151百万円 前年同期比 29.6%増

#### 概況のポイント

- 機能フィルム製品については、従来製品の工業用および医療用フィルムの販売は減少したものの、事業転換を進めている四輪車・二輪車用外装フィルムの販売が増加。
- 精密機能部品については、主要顧客であるOA機器メーカーにおいて、当社製品が搭載されている機種を増産により高機能ローラの販売が増加したことに加え、インクジェットプリンターおよび金融端末機器用精密ベルトなどの販売が増加。

### 産業資材事業

売上高 16,541百万円 前年同期比 4.3%増

セグメント利益 1,095百万円 前年同期比 9.2%減

#### 概況のポイント

- 伝動ベルトについては、中国において昨年の水害が影響し、農業機械用伝動ベルトなどの販売が減少したものの、アセアン地域および欧州地域における販売強化により農業機械用伝動ベルトや産業機械用伝動ベルトの販売が増加。また、国内においては、民間設備投資需要が増加した影響を受け、産業機械用伝動ベルトおよびプーリの販売が増加し、全体では販売が増加。
- 運搬ベルトについては、国内の石炭火力発電所向けなどの案件が減少し、コンベヤベルトの販売が減少したものの、国内、中国およびアセアン地域において積極的な顧客開拓を進めたことにより、樹脂コンベヤベルト(サンライン®ベルト)の販売が伸長。

### その他事業

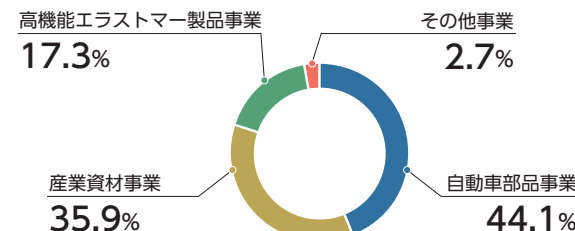
売上高 1,261百万円 前年同期比 7.9%増

セグメント利益 128百万円 前年同期比 31.8%減

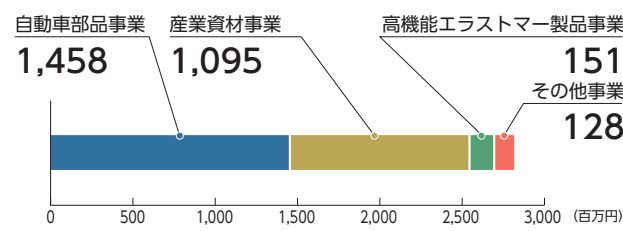
#### 概況のポイント

- ロボット関連デバイス事業や金属ナノ粒子のナノ粒子創生技術などを活かした新製品開発を推進。

### 当第2四半期累計のセグメント別売上高構成比



### 当第2四半期累計のセグメント利益



※上記の各セグメント別売上高およびセグメント利益は、セグメント間取引消去前の金額で記載しております。

## 財務ハイライト

### ● 連結貸借対照表 (要旨)

(単位: 百万円)

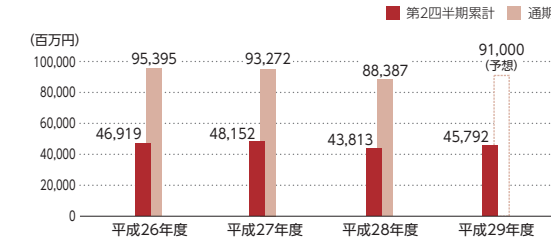
科目	当第2四半期末 (H29.9.30)	前期末 (H29.3.31)	
資産の部	流動資産	55,668	52,801
	固定資産	44,266	43,894
	有形固定資産	29,265	29,137
	無形固定資産	1,464	1,548
投資その他の資産	13,536	13,207	
資産合計	99,934	96,695	
負債の部	流動負債	25,367	24,773
	固定負債	12,923	13,181
負債合計	38,291	37,954	
純資産の部	株主資本	60,357	58,513
	その他の包括利益累計額	1,056	7
	非支配株主持分	230	220
純資産合計	61,643	58,741	
負債純資産合計	99,934	96,695	

### ● 連結損益計算書 (要旨)

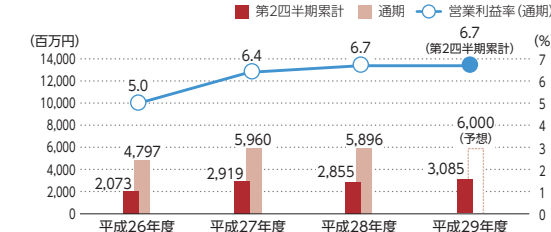
(単位: 百万円)

科目	当第2四半期累計期間 (H29.4.1 から H29.9.30まで)	前第2四半期累計期間 (H28.4.1 から H28.9.30まで)
売上高	45,792	43,813
営業利益	3,085	2,855
経常利益	3,387	2,762
税金等調整前四半期純利益	3,387	2,762
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,597	2,095

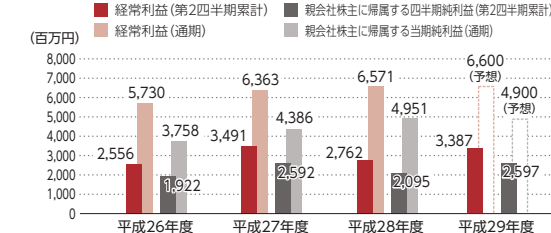
### ● 売上高



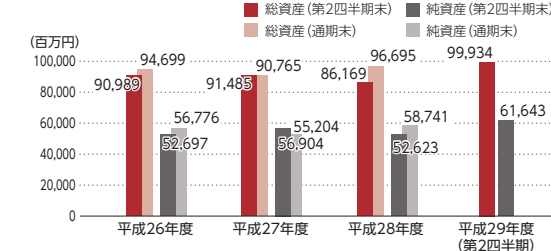
### ● 営業利益 / 営業利益率



### ● 経常利益 / 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



### ● 総資産 / 純資産



2017年4月 輸送貨物の固縛ベルト用張力計「LASHINGBITE®」を販売開始

近年、物流業界では、トラック輸送や鉄道輸送、海上コンテナ輸送等、輸送環境の多様化に伴い、輸送中の振動や衝撃による荷崩れ、物損事故が問題となっています。

荷崩れ、物損事故の原因は様々ですが、その一つが輸送貨物の固縛時における締め付け力の確認を全て人の感覚で行っていることでした。そのため、個人差やその時々によって締め付け力にバラつきが生じていましたが、当張力計は、高い精度で固縛用ベルトの張力を数値管理でき、輸送貨物の荷崩れの原因の一つである張力不足を防ぎ、輸送の信頼性を高めることが可能になりました。



2017年6月 「2017国際食品工業展 (FOOMA JAPAN2017)」に出展

「食品工場に新しい価値を提供する」をキーワードとして、搬送物の非付着性に優れた食品搬送用ベルトや、欧州委員会規則 (PIM) に適合したベルト・シートのほか、介護食や飲料を「飲む」嚥下機能について、従来の官能評価を定量化する可能性を提案する伸縮性ひずみセンサ「C-STRETCH®」等の開発製品を紹介しました。



2017年4月

5月

6月

● 創業111周年記念式典を開催

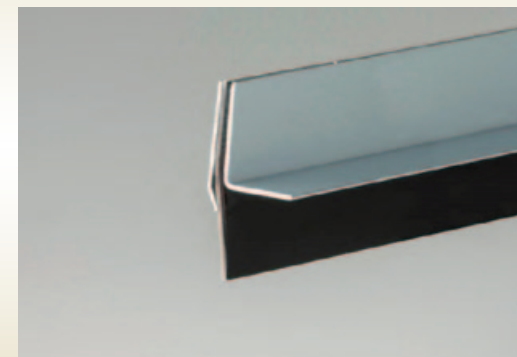


● 株式の立会外分売の実施、終了

● CO<sub>2</sub>発生量の抑制に向けたクールビズ、ライトダウン活動を実施

2017年6月 「第21回 機械要素技術展 (M-Tech)」に出展

「省エネ・高機能・問題解決」をキーワードとして、工作機械の摺動部に使用するシール材「ワイパーエッジ®EX」、次世代の平ベルト駆動システム「HFD®システム」、国内初となる高弾性アラミド心線を採用した結合型細幅Vベルト「パワーエース®アラミドコンボ」などの開発製品の紹介やデモンストレーションを行いました。



2017年 8月 粉摺り機に使用する特殊熱硬化ウレタン製もみすりロール「イエローボーイ®」を販売開始

「粉(もみ)」を「粉殻」と「玄米」に分離する粉摺り機での使用に最適な特殊熱硬化ウレタン製もみすりロール「イエローボーイ®」を販売開始しました。従来のゴムロールの重量は、1個当たり約8kgあり、交換・入替作業の負担が大きいという課題がありますが、「イエローボーイ®」は長寿命かつ軽量であるため、その負担を軽減することが可能になりました。



2017年 9月 「第44回 国際福祉機器展 H.C.R.2017」に出展

福祉機器の新しい可能性を提案する伸縮性ひずみセンサ[C-STRETCH®]、ゴム之力を利用して上半身の捻りを下肢に伝え、歩行をアシストする軽量・無動力の「歩行アシスト用品」等の開発製品を紹介しました。



● 「バンドーグループ健康宣言」を制定

2017年 7月

8月

9月

2017年 8月 「CSR報告書2017」を発行

2016年度のバンドーグループのCSR活動の取り組み実績をまとめた「CSR報告書2017」を発行しました。当社グループは、CSR推進テーマとして「コンプライアンス・企業倫理」「環境」「品質」「人権・労働・安全」「社会貢献」「情報開示」の6つを定めて活動を行っています。詳細は当社ホームページにてご覧いただけます。(トップページ<http://www.bandogrp.com>から「CSRの取り組み」を選択し、「CSRレポートダウンロード」をクリックしてください。)

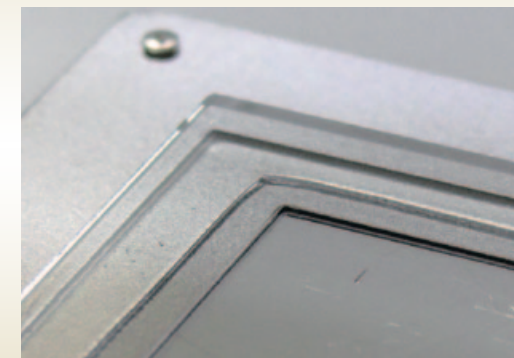


● 自己株式の取得及び自己株式立会外買付取引(ToSTNeT-3)による自己株式の買付け

2017年 9月 「SID Vehicle Display Detroit」に出展

ディスプレイのダイレクトボンディング※1の際に、従来の光学用粘着剤シートでは困難な部分にも適用可能なポリウレタン系の超厚膜光学用透明粘着剤シート(OCA)の開発製品の紹介やデモンストレーションを行いました。

※1 ダイレクトボンディングとは、カバーガラスと液晶ディスプレイ等を光学用透明粘着剤シートで貼り合わせることにより、視認性に優れ、屋外用途でも信頼性の高いディスプレイを実現するプロセスです。



## 株式の状況／会社概要 (平成29年9月30日現在)

### ● 株式の状況

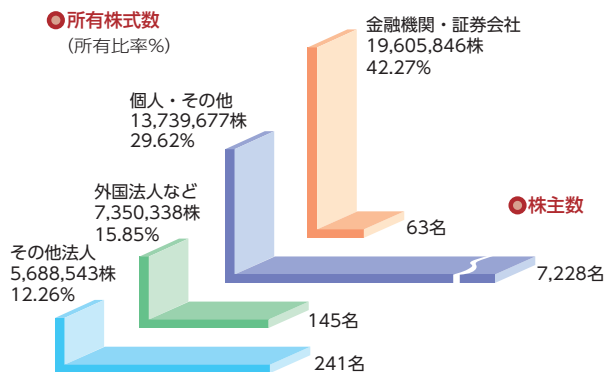
発行可能株式総数	187,000,000株
発行済株式の総数	47,213,536株 (自己株式829,132株を含む。)
株主数	7,678名

### ● 大株主

大株主名	当社への出資の状況	
	持株数	出資比率
バンドー 共栄会	3,840千株	8.27%
株式会社三井住友銀行	2,315	4.99
三菱UFJ信託銀行株式会社	2,002	4.31
明治安田生命保険相互会社	2,000	4.31
株式会社みずほ銀行	1,800	3.88
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,609	3.46
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,575	3.39
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,213	2.61
日本生命保険相互会社	1,174	2.53
GOVERNMENT OF NORWAY	1,016	2.19

(注) 1. 出資比率は、自己株式(829,132株)を控除して算出しております。  
2. 上記の出資比率につきましては、小数点第3位以下は切り捨てて表示しております。

### ● 株主構成



### ● 会社概要

社名	バンドー化学株式会社 Bando Chemical Industries, Ltd.
創業	1906年(明治39年)4月14日
設立	1937年(昭和12年)1月7日
本社事業所	神戸市中央区港島南町4丁目6番6号 TEL (078) 304-2923
ホームページアドレス	http://www.bandogrp.com

### ● 役員

代表取締役社長	吉井 満 隆 (社長執行役員)
取締役	中村 恭 祐 (常務執行役員)
取締役	柏田 真 司 (常務執行役員)
取締役	染田 厚 (執行役員)
取締役(監査等委員)	松坂 隆 廣 (常勤)
取締役(監査等委員)	重松 崇 生
取締役(監査等委員)	清水 春 生

### 執行役員

常務執行役員	大原 正 夫
常務執行役員	岩井 啓 次
常務執行役員	北林 雅 之
常務執行役員	鮫嶋 克 彦
執行役員	山口 勝 也
執行役員	永瀬 貴 行
執行役員	万場 一 幸
執行役員	松尾 聡 勉
執行役員	岡田 勉

※取締役(監査等委員) 松坂 隆廣氏、取締役(監査等委員) 重松 崇生氏、取締役(監査等委員) 清水 春生氏は社外取締役であります。

### ● 事業所・グループ企業一覧 (平成29年9月30日現在)



## 株 主 メ モ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年9月30日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
同 連 絡 先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号 TEL (通話料無料) 0120-094-777
公 告 方 法	電子公告により行う。 公告掲載URL <a href="http://www.bandogrp.com">http://www.bandogrp.com</a> ただし、事故その他やむを得ない事由によって 電子公告による公告をすることができない場合は、 日本経済新聞および神戸新聞に掲載して行う。
上 場 取 引 所	東京（第1部）

### 〈ご注意〉

1. 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店でもお取り扱いいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

# BANDO



バンドーグループは  
環境にやさしい事業を  
推進しています

